中禅寺湖における遊漁・漁業の実態や漁場利用に関する調査（平成 29 年度/国庫委託）

横塚哲也・阿久津正浩・小堀功男・中村智幸[1]

要　約

福島第一原発事故により拡散した放射性セシウムは東日本の広範囲に降下・沈着し，県内河川湖沼に生息する魚類からも検出された。中禅寺湖では，2012 年 2 月にヒメマス，ニジマス，ブラウントラウトから基準値を超える放射性セシウムが検出され，栃木県から中禅寺湖漁業協同組合に対して解禁延期が要請された。これを受けて，中禅寺湖漁協では C&R 制による漁場運営を開始した。本研究では，中禅寺湖における C&R 制の遊漁・漁業の実態について把握することを目的として，マス釣りの遊漁者を対象としたアンケート調査を行った。

結果の概要は次のとおりである。

①マス釣りの延べ遊漁者数は, C&R 制を導入した 2012 年に大きく減少したものの，その後年々増加し，2017 年には事故以前の水準を上回った。一方で，組合員数は原発事故以降著しく減少した。

②C&R 制導入以前から釣りをしていた遊漁者を「古参客」，C&R 制導入以降に釣りを始めた遊漁者を「新規客」と分類したところ，古参客が 63.9%，新規客が 36.1%であった。

③古参客および新規客のそれぞれ 80%以上が，「禁漁ではなく, C&R 制で解禁したこと」について「賛成」と回答した。

④釣獲対象として優先順位の最も高い魚種は，組合員ではヒメマス，古参客ではブラウントラウト，新規客ではレイクトラウトであった。産業管理外来種であるブラウントラウトおよびレイクトラウトは，中禅寺湖の遊漁振興を図る上で非常に重要な魚種であるため，今後も資源の有効利用と適切な管理が必要である。

⑤新規客が中禅寺湖で釣りを始めた理由について，テキストマイニングを用いてワードを抽出したところ，「レイクトラウト」，「釣る」の出現頻度が高く，「中禅寺湖に生息するレイクトラウトを釣るため」に中禅寺湖で釣りを始めた人が多かった。

⑥C&R 制導入以降，釣行回数が「増えた」あるいは「変わらない」と回答した古参客は，岸釣りで 84%，船釣りで 60%であった。

⑦魚類の放射能汚染に伴う C&R 制での解禁は，解禁延期要請が解除されるまでの間，遊漁者を集客し，漁協経営への影響を緩和させることが可能な一手段であると考えられた。一方で, C&R 制は組合員（漁業者）にとってはメリットがなく，組合員数の減少を招いていることから，1 日も早い解禁延期要請の解除が望まれる。

なお，本研究は（国研）水産研究・教育機構中央水産研究所「採捕制限下の遊漁・漁業の実態や漁場利用に関する調査」により実施した。調査結果の詳細については，（国研）水産研究・教育機構「平成 29 年度海洋生態系の放射性物質挙動調査事業報告書（下記 URL）」に掲載した。

http://www.fra.affrc.go.jp/eq/Nuclear_accident_effects/final_report29.pdf

（指導環境室）

[1]（国研）水産研究・教育機構中央水産研究所